
服を着せられていく話

あゆみかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

服を着せられていく話

【Nコード】

N9831G

【作者名】

あゆみかん

【あらすじ】

【哲学／無ジャンル／短編】 着せられた服を脱ぐのは自我の目覚め。さて赤ん坊よ、これ如何に。未来はあるのか？……ないかもね。

服を着せられていく話。

何も知らない無垢な赤ん坊が生まれた。

大人は、親たちは、その赤ん坊に自分たちの好きな服を着せていく。「帽子はどうだい?」「帽子? 必要ないよ」「まあそう言わずに、着けて着けて」

そう言われて乗せられて。帽子の次は、手袋、靴下、ブーツに、ピアスにサングラスといったアクセサリ。「よく似合ってるよ」「そうかい? ……えへへ」

髪は染められ産毛も必要ないと捨てられて、裸の子は色取り取りに色鮮やかに変身だ。銀の指輪が輝いている、首元の宝石も光っている。まるで重さを感じない。

「素敵ですね」「そうですか?」

「そうだ、お化粧品もしてみたら如何でしょうか」

頬紅を勧めて持つてきて、塗りたくる。長さの足りないまつ毛は、増やす。「今ね、この色が流行ってるんですよ」

目はラインで強調される、シミや、そばかすは同じ素色で覆われる。「まあ自然的ナチュラルで美しい」

服を重ねることにオシャレだと、個性的だと、格好イイト。

体が小物で重くなればなるほど綺麗だと。

肌が見えなくなるほど美しいと。「香水は如何が?」

赤ん坊は、花が好きだと思ったのでその香りを選んでつけた。

赤ん坊は満足だった。皆が自分を見てくれている、絶賛してくれているからだ。とてもいい気分だ、褒められて。世界で一番、可愛くて綺麗で美しいのは自分なんだ、そうなんだ……無垢な赤ん

坊は、信じて決して疑わなかった。誰も咎める者はいない、瞳は生き生きと見るもの全てを取り込んだ。人が飾り立てる言葉が赤ん坊にとつての常識で、言われなくてはかなりの不満になってくる。時々、言葉に飽きて嫌になる時も出てきていたのかもしれない、赤ん坊は単純だった。

やがて季節は春になり、夏が近づいてくる。森は緑で賑わい、太陽は高く長く残るようになって、発生する四季の織り成す風は赤ん坊にも無論、平等に行き渡り、届いていた。すると当然のことながら赤ん坊は、あまりの暑さに頂垂れるようになっていた。「暑い、暑い……」

これでは蒸されてしまい、灼熱の地獄だ、もう服を脱ぎたい……そう思い始めた、ところが、だった。

「もし……脱いでしまつたら……」赤ん坊に翳りが生じた。

もう賛美の言葉はもらえない、一枚でも着ていたものを脱げばひとつずつでも褒められることは減っていくのだろうと予想し、躊躇われた。「でも暑い……死んでしまふよ……」結局、とうとう我慢ができなくなつて、赤ん坊は衣服を脱ぎ始めてしまつていた。「仕方ない……」

今まで着させられた物を次々に洗い取つて、外して、脱いでいく赤ん坊。一枚で済むだろうと思えば、ちっとも涼しくならず、脱いでいくしかない赤ん坊。「暑いよお……」

自分からひとつずつ離れていくにつれて、果てしない空しさが溜まっていつていた。もう赤ん坊は誰も彼も見向きされなくなり身の体重も、軽くなつたが、心痩せていった。このどうしようもない寂しさが自分以外に伝わればいいのにと、いつしか願うようになる。それから、『本当の自分を知ってもらいたい』。歯止めの利かない赤ん坊の純粋な欲望は、行動に表れていった。

赤ん坊は脱ぎを止めれず、ついに下着パンツ一丁になってしまつ

た。仁王立ちで我、堂々としていた。

これが着けている最後の1枚だった……。「もうこれで何も言われない」赤ん坊は調子に乗った。最後の1枚を脱ぎ捨て、無垢な赤ん坊は地面を駆けていく、ああ、さっぱりした、清々しいな……何で服を着ていたんだろう？ と……赤ん坊は素朴な疑問を大人たちに投げかけた。

……しかし残念だが、この頃になるとすでに赤ん坊は赤ん坊ではなく、成人をとくに過ぎた大人になっていたという。

よって、外を歩いていたら、巡回中のお巡りさんに猥褻わいせつの現行犯で即行逮捕されてしまった。

赤ん坊は再度、不特定多数の人類に無垢な疑問を問いかけている。

『僕は何か悪いことをしたのだろうか？』

せめて聞くだけ聞いてあげてほしいと、横で空気が言っていた。

《END》

(後書き)

変態。

読了ありがとうございます。

H 2 1 . 5 . 2 4 .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9831g/>

服を着せられていく話

2010年10月14日20時40分発行